

文部科学省

外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議

「英検CAN-DOリスト」の概要と 「提言1」に関する調査報告（抜粋）

2014年2月24日
公益財団法人 日本英語検定協会
制作部アドバイザー 柳瀬和明

1

英検Can-do調査の目的

- 1. 英検合格者の「英語使用に対する自信の度合い」**
初級から上級まで幅広い学習者が受験する英検の各級合格者を通して、日本における英語学習者がそれぞれの学習段階で「具体的にどのようなことを英語でできると考えているのか（自信の度合い）」を調査する。
- 2. 英検の級別の情報提供**
英検の各級合格者が「具体的にどのようなことを英語でできると考えているのか（自信の度合い）」という情報を、英語学習者、保護者、英語教育関係者、ならびに英検の試験結果を利用する第三者に対して提供する。
- 3. 国内外の研究との比較**
国際的なレベルでのCan-do研究との比較検討を進める基礎資料とする。

2

調査対象者・有効回答数

英検合格者（合格直後、ただし1級はそれより前の回次も含む）を対象とし、各級合格者の分布（得点、年齢、性別）に基づいて、各級2,000名を任意抽出

	第1次調査 2003/12	第2次調査 2004/2	第3次調査 2004/12	合計
1級	1,200	—	1,267	2,467
準1級	1,247	—	1,320	2,567
2級	1,193	1,260	1,277	3,730
準2級	1,069	1,249	1,123	3,434
3級	1,070	1,150	1,148	3,441
4級	1,020	1,097	1,078	3,195
5級	989	—	972	1,961
合計	7,788	4,756	8,185	20,279

3

調査方法

1. 各級合格者（合格直後）に対するアンケート調査

- ・ 4技能別 の能力記述文
- ・ 回答者1人あたりの項目数：80～100

2. 5段階で「自信の度合い」を自己評価

例：天気予報を聞いて、その内容を理解することができる。

（晴れのち曇り、気温の高低など）

- 1 ほとんどできない（と思う）
- 2 少しできる（と思う）
- 3 ある程度できる（と思う）
- 4 だいたいできる（と思う）
- 5 よくできる（と思う）

4

能力記述文作成の主な参考資料

- ① 中学校学習指導要領(1998)
- ② 中学校各種英語検定教科書
- ③ 高等学校学習指導要領(1999)
- ④ 高等学校各種英語検定教科書
- ⑤ 文部科学省(2003)「中学校・高等学校教員へのアンケート」
(英語教育に関する研究第一グループ)
- ⑥ 実用英語技能検定(英検)各級のテスト課題
- ⑦ ACTFL Proficiency Guidelines
- ⑧ ALTE Can-do Statements
- ⑨ Canadian Language Benchmarks
- ⑩ Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)
- ⑪ Dialang Self-assessment List
- ⑫ TOEIC Can-do Guide

5

能力記述文作成上の配慮点①

<日本というEFL環境の反映>

日本における英語学習者(特に、初中級レベル)の大多数が学校教育で英語を学ぶことを踏まえ、以下の点に配慮した。

- ① 中学校・高等学校の学習指導要領
学習指導要領(英語)の文言をすべて「…できる」という能力記述文の形式に書き換える。
- ② 中学校・高等学校の各種検定教科書
取り扱っている話題・場面や言語活動を能力記述文の形式で書き起こす。

6

能力記述文作成上の配慮点②

<具体例の提示>

能力記述文の文尾に（ ）で例示することで、以下の点を配慮した。

- ① 能力記述文の理解の一助
能力記述文の汎用性を高めながら、その理解が大きくズレないようにする。
- ② 学校での学習との関連づけ
教科書などによる日ごろの学習との結びつきを補助する。
- ③ 能力記述文のタスク化の一助
能力記述文の検証などのためのタスク化を助ける。

7

能力記述文作成上の配慮点③

<幅広い年齢層への対応>

英検の受験者はその年齢層が多岐に渡るので、年少者と年配者で能力記述文の理解が大きくズレないように以下の点に配慮した。

- ① どの年齢層でも該当する表現
生徒・学生・社会人（「自分の学校（会社）」）
- ② 能力記述文の後の（ ）で示す例示内容
年少者が見ても年配者が見ても、能力記述文の理解を助けることができる例の提示

8

能力記述文作成上の配慮点④

<尺度化された指標の反映>

先の配慮点①～③を踏まえて用意した多数の能力記述文について、尺度化された指標における能力記述文と比較しながら、以下の点に配慮した。

- ① 能力記述文の「上下関係」
能力記述文によって表される言語行動が、どのような難易度関係にあるのかを俯瞰する。
- ② 能力記述文の表現形式
尺度化された指標における能力記述文で用いられている用語や表現を参考にして、用意した能力記述文の体裁を整える。

9

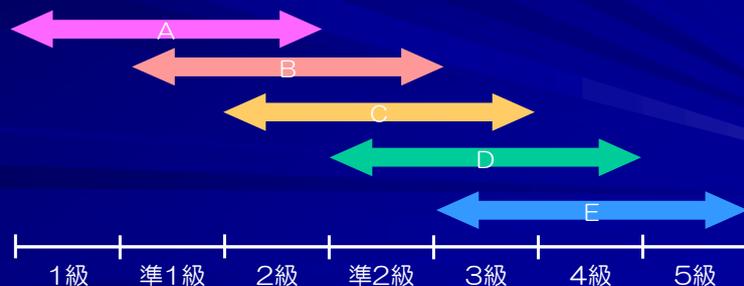
調査紙の作成

1. 能力記述文のレベル想定

各級のレベルを考慮し、4技能別に7つの級に仮分類

2. 調査紙の形態

- ・ 5段階のセット (A~E)
- ・ 隣接するセットに共通項目 (能力記述文) を配置
(共通項目を使って、5つのセットを等化、尺度化)



10

検証手法

1. 共分散構造分析（段階反応モデル）

「項目反応尺度の等化」（尾崎，2003）

回答者が各能力記述文を「どの程度易しい（難しい）」と判断したかを選択肢（1～5）ごとに数値化し、アンカー項目をもとに全項目を等化して、同一尺度上に乗せる。

2. 選択率の算出

各能力記述文について2種類の選択率を算出

- ① 選択肢3（ある程度できる[と思う]）以上を選んだ人の割合
- ② 選択肢4（だいたいできる[と思う]）以上を選んだ人の割合

3. 級間の区切り

選択率①が80%以上かつ②が50%以上という条件を満たしているかどうかを基準

（5段階での回答における「中心化傾向」を考慮）

級別・技能別にリスト化し、2006年に公開

11

「提言1」に関する調査報告（抜粋）

1. 調査目的

文部科学省による「提言1」（学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定・公開）に対する中学校、中等教育学校・中高一貫校、高等学校の取り組み状況を調査する。

2. 調査期間

平成25年7月～8月

3. 調査方法

全国の国公立中学校及び高等学校から5,000校を無作為抽出し、郵送による記述回答方式

4. 送付数・回収結果

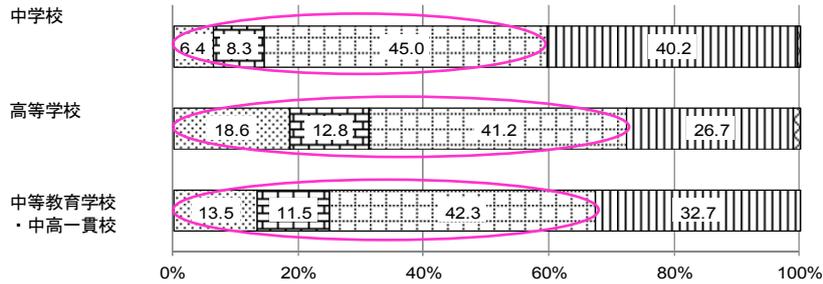
調査対象	送付数	回収数	回収率
中学校	2,800	518	18.5%
高等学校	2,800	345	17.3%
中等教育学校・中高一貫校	200	52	26.0%
合計	5,000	915	18.3%

（公益財団法人日本英語検定協会，2013）

12

問3-2. 「学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定」することについて、貴校の現在の状況にあてはまるものを1つ選んでください

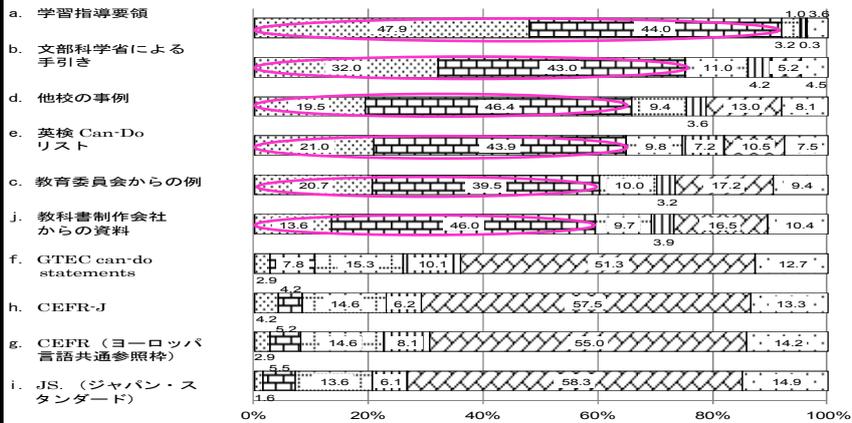
- ① すでに学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定している
- ② ほぼ学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定している
- ③ これから学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定する
- ④ 学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定する予定はない
- ⑤ 無回答



〈 中学校 降順グラフ 〉

問3-3. 問3-2で『選択肢の1～3』とお答えになった方にお聞きします。「学習到達目標を CAN-DO リストの形で設定」する際に何を参考とされました（参考にするとしますか）【中学校】

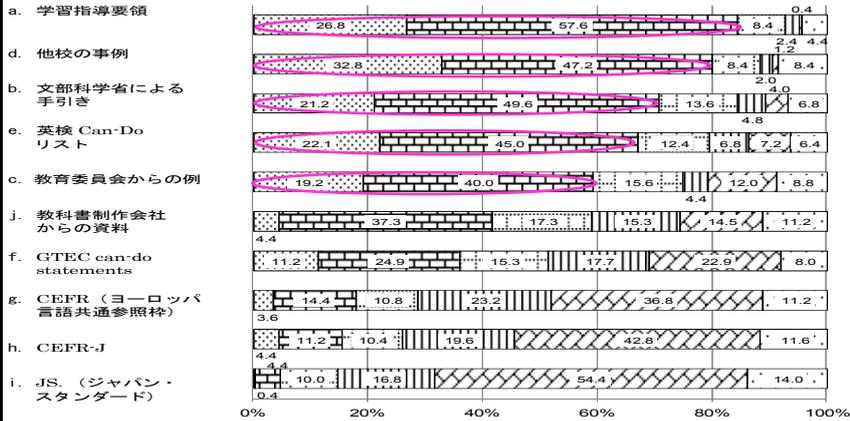
- ① 大変参考にした（する）
- ② 参考にした（する）
- ③ あまり参考にしなかった（しない）
- ④ 参考にしていない（しない）
- ⑤ 見たことがない
- ⑥ 無回答



〈 高等学校 降順グラフ 〉

問3-3. 問3-2で『選択肢の1~3』とお答えになった方にお聞きします。「学習到達目標をCAN-DOリストの形で設定」する際に何を参考とされました（参考にすると思います）か 【高等学校】

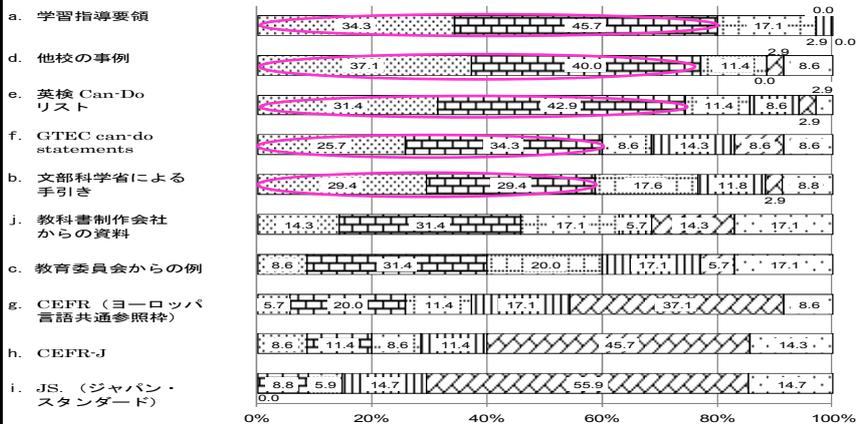
- ① 大変参考にした（する） ② 参考にした（する）
 ③ あまり参考にしなかった（しない） ④ 参考にしていない（しない）
 ⑤ 見たことがない ⑥ 無回答



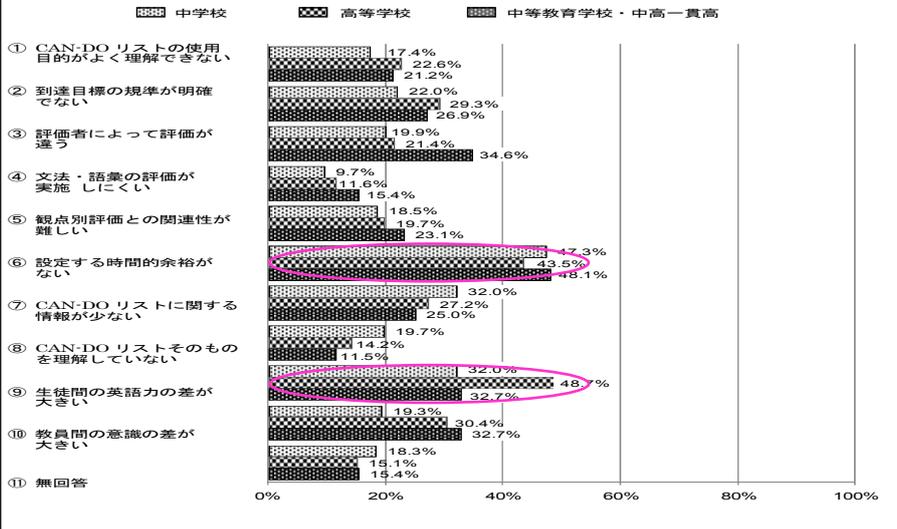
〈 中等教育学校・中高一貫校 降順グラフ 〉

問3-3. 問3-2で『選択肢の1~3』とお答えになった方にお聞きします。「学習到達目標をCAN-DOリストの形で設定」する際に何を参考とされました（参考にすると思います）か 【中等教育学校・中高一貫校】

- ① 大変参考にした（する） ② 参考にした（する）
 ③ あまり参考にしなかった（しない） ④ 参考にしていない（しない）
 ⑤ 見たことがない ⑥ 無回答



問3-5. 「学習到達目標をCAN-DOリストの形で設定」する際に、困難だった(困難だと思う)点や妨げになった(妨げになる)点をお聞きします。貴校及び貴校の先生方にあてはまるものをすべて選んでください



問4-4 どのような研修やサポートが必要だと思いますか。それぞれに必要と思われる内容を具体的にお書きください。

<時間軸に沿って記述回答のキーワードを整理>



<設定段階>

- ・作成方法のワークショップ
- ・学力差への対応
- ・モデル(雛形)の提示
- ・校種別リスト
- ・学習指導要領との違い
- ・年間指導計画との関連

<運用段階>

- ・授業での活用方法・事例
- ・単元との関連
- ・観点別評価(規準・基準)との違い
- ・能力記述文の評価方法
- ・テストの作り方
- ・成績(評定)への反映の仕方

英語科教員全員を対象とした研修(高等学校で記述多数)

参考文献

- ACTFL Proficiency Guidelines (1985 version)
<http://www.sil.org/lingualinks/languagelearning/otherresources/actflproficiencyguidelines/contents.htm> (2005年8月2日現在)
- ALTE Framework & Can-Do http://www.alte.org/can_do/index.cfm (2005年8月2日現在)
- Canadian Language Benchmarks <http://www.language.ca/bench.html> (2005年8月2日現在)
- Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge, Cambridge University Press
[吉島茂/大橋理枝訳・編 (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 朝日出版社]
- Dialang Scales <http://www.dialang.org/project/english/ProfInt/index3.htm> (2005年8月2日現在)
- TOEIC Can-do Guide http://ftp.ets.org/pub/corp/ell/TOEIC_Can_Do.pdf (2005年8月2日現在)
- 尾崎幸謙 (2003) 「項目反応尺度の等化」 『共分散構造分析—構造方程式モデリング— [技術編]』 豊田秀樹編著 (2003) 朝倉書店
- 公益財団法人日本英語検定協会 (2013) 「外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定に関する現状調査」
- 文部省 (1998) 『中学校学習指導要領』
- 文部省 (1999) 『高等学校学習指導要領』
- 文部科学省 (2003) 『中学校・高等学校教員へのアンケート』 (英語教育に関する研究第一グループ)

※ウェブサイトの後にある日付は、英検Can-doの調査段階で参考にしたことを示す。